

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「メアリー様は姫活中！」

テーマ：「姫騎士なのに、戦場に行きたがらない美少女」

キャラクター

75

ストーリー

65

テーマ(設定)

65

文章力

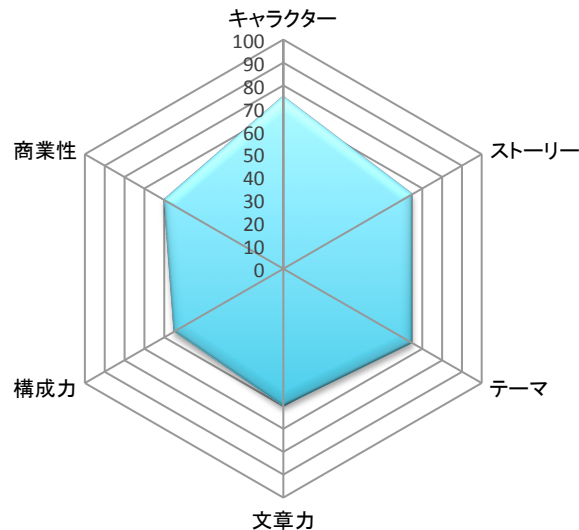
60

構成力

55

商業性

60



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものが無い

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・自分が書きたいものを書くのではなく、読者が読んで面白と思う物を書くという意識が非常に伝わって来る作品であった。特に構成がしっかりしており、メアリーとテオの登場からレセック伯爵切手まで明確な起承転結があり、読んでいて非常に安心できたことに楽しかった。
 ・ほとんど問題点は無いが、強いてあげるとするならば設定を出し過ぎる(説明や根拠を出し過ぎる)傾向にあるという点か。例えば「予てよりテオは～変わってくればいい」の文などは、結局「予てよりテオは、メアリーが戦場に赴くことには否定的であった。仮にも、彼女は『姫』だ」ということを書いていけば十分であり、メアリーを好んで危険に曝すような今の体制を歓迎できるはずがなかった」とテオが考えていることは一つ前の「慣れないのですか」というテオの台詞から明らかであるし、「重鎮たちの意識が根本的なところから変わってくればいい。」というテオの意識もまわりを一喝していることから読み手で想像ができるレベルの設定だと思われる。書き過ぎはむしろ読み手の想像の余地を奪うため、敢えて書かず、読み手の想像に補充させるという技術が今後作者様の課題になってくるのではないかと。(恐らくこれができることで文字数に余裕が生まれ、後半のレセック戦も十分に掘り下げた余裕ができたと思われる)
 ・メアリーが最高に可愛い。「行いーかあーなあーいーのおーだああーっ!」最高である。+2

合計加点ポイント 2

総得点: 380 / 600

B方式総合得点: 24267 点